

I. 調査の実施概要

1. 調査の目的

市民の市政についての意見や評価を、意識調査により統計的に把握し、今後の市政を推進するための基礎資料とすることを目的に、調査を実施した。

2. 調査の設計

- 調査地域 甲賀市全域
- 調査対象 市内在住の18歳以上の男女・個人
- 調査標本数 3,000人
- 調査抽出法 層化二段無作為抽出法（抽出台帳：住民基本台帳、旧町5地域別）
- 調査方法 郵送配布・郵送回収
- 調査時期 平成29年6月19日（月）～平成29年7月5日（水）

3. 調査票の配布・回収の状況

- 配布件数 3,000件
- 回収件数（率） 1,243件（41.4%）
- 有効回答数（率） 1,241件（41.4%） ※回収件数から無効票（白票）2件を除いた集計母数対象件数

4. 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

①標本抽出計画と集計母数（集計対象数）

今回の調査では、標本数（アンケート送付数）を市内5地域の母集団構成比（人口比率 ※平成29年5月末現在の住民基本台帳登録人口（18歳以上）に基づく）に応じて配分した。

表 1 標本抽出計画と集計母数

	標本抽出計画				有効回答	
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比
水口地域	33,119	43.4 %	1,350	45.0 %	493	39.7 %
土山地域	6,712	8.8 %	240	8.0 %	104	8.4 %
甲賀地域	8,807	11.5 %	330	11.0 %	172	13.9 %
甲南地域	17,256	22.6 %	690	23.0 %	303	24.4 %
信楽地域	10,431	13.7 %	390	13.0 %	161	13.0 %
不明・無回答	-	-	-	-	8	0.6 %
合計	76,325	100.0 %	3,000	100.0 %	1,241	100.0 %

②調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、調査結果（標本測定値）から母集団の意識や課題、要望を推定することができる。ただ、標本（調査対象）抽出の際に生じる標本誤差を考慮したうえで調査結果を分析し、また母集団の意識や課題、要望を推定する必要がある。

世論調査では、信頼度95%（同じ調査で標本（調査対象）を変えて行った場合、100回中95回までは同様の結果が得られる（5回程度は異なる結果が出ることは許容される）と考えてもよい）の水準を求めるのが一般的とされている。

これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差は以下の数式で求められる。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ε：標本誤差

N：母集団数（本調査では 76,325 人）

P：標本測定値（50%のときに最大）

±1.96：信頼度 95%の時の信頼係数

n：標本数（回収数。本調査では有効回答数 1,241 件）

上記の式に必要な数値をあてはめて計算すると、「ε（標本誤差）＝2.76」（小数第3位四捨五入）という数値が得られる。このことから、今回と同じ調査を調査対象を変えて行った場合、ある設問のある選択肢の回答比率が50%であった場合、その回答比率の誤差は±2.76%（47.24%～52.76%）の範囲内であると考えても間違いないといえる。

5. 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて

- 比率はすべて、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（副問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（%）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- 百分率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合がある。
- 問7、問8、問10、問11、問12、問13、問14、問15、問16、問17、問19、問21に表示する再集計比率は、四捨五入の関係でグラフ中表示する比率の合計と一致しない場合がある。